

大切な時間

岩出第二中学校 二年 木下 亜泉

二年に進級してから、三度、短時間登校したが、自宅学習の毎日が続いている。テレビは、連日、政府の対応への批判を放送している。違和感を覚えるのは、私だけだろうか。言うは易く行うは難しだと感じる。後からこうすれば良かったのにと責めることは、誰にでもできるが、国民の安全や生活を守ることは、誰にでもできるわけではなく、本当に大変なことだと思う。今、私にできることは、STAY HOME! 私なりに、ピンチをチャンスに変えたい。たっぷり時間がある。テレビを消して、考える時間を作ろうと思う。

まずは、学校生活について考えることにする。去年の春、中学校に入学してからのことを振り返ると、楽しいことばかりが浮かぶ。充実していたと自分でも思う。躍動祭や感動祭での好成績。担任の先生の誕生日に、クラス全員で考えたサプライズ。

そして、一番は、ハンドボール部に所属したことだ。初めての球技に戸惑いながらも、先生や先輩のご指導の下、仲間と全力で勝ち取った春の全国大会への切符。二月までは、毎日がクラブ漬けで、大会に向けてワンチームになっていた。だが、三月から長い休校となる。全国大会中止。誰のせいでもない。残念で悔しい。体力維持のため、ランニングやストレッチをするが、心は晴れなかった。そんな中、転任することになった顧問の先生の手紙が、私を変えてくれた。厳しかった先生が、私の成長を認めて、強いチームであるために伝えてほしいことを書いてくれていた。先生から託されたことを忘れずに、いつか後輩に伝えるため、私は今日も走る。

次に、家族について考えることにする。休校の私、テレワークの父、勤務日数が減った母、三人で食事をする、一緒に過ごす時間が多くなった。「給食の有難味がわかるわ。」と嘆いていた母だが、私が、食事の準備を手伝うと機嫌がいい。夕方、テレワークが終わった父と、キャッチボールや散歩をすると気分転換にもなる。父の仕事帰りが遅かった時にはできなかったことだ。

我が家の家族関係を振り返ると、心配性の母が、父や私に、小さい悩みから大きい悩みまで、相談することが多い。私も時折、アドバイスするが、父に聴いてもらえることで安心していることが多い。父が母に話していた中で心に響いた言葉がある。「みっともない生き方をしていないなら大丈夫だ。」自分の行動を見直すこと。私も気をつけたい。

一方、母の口癖は「怒ると損よ。意地悪だけはしないでね。」私は腹が立っても、意地悪だけはしていない。母は、職場での失敗や格好悪い出来事を私に話して意見を求めたりする。私の何倍も生きている大人なのにと、内心笑えるが、家族の前だから正直でいられるのかなとも思う。

何度も同じことを初めての様に話す母に「その話、この前も聞いたよ。」と笑うと、「子供叱るな、来た道だ。老人笑うな、行く道だ。」と言いながら、母も笑う。私は笑いながらも、なるほどと思う。今度、勉強のことで母が叱ったら、私もこの言葉を返してみよう。母もなるほどと笑うかな？

改めて、学校生活や家族について、ゆっくり考えることができた。時間を大事に使えたと思う。そして、どんな時にも、大切な言葉が自分を支えてくれている。先生からの言葉、両親からの言葉。私も素敵な言葉を伝えられる人になりたいと思う。今、こうして元気に過ごせている。

私の周りのすべての人に、「有難う。」